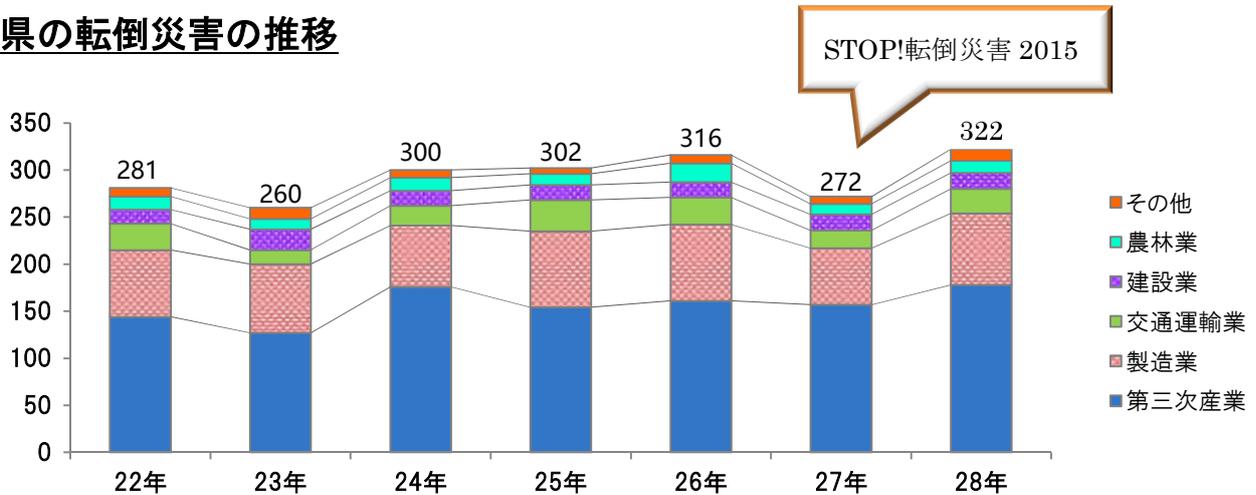
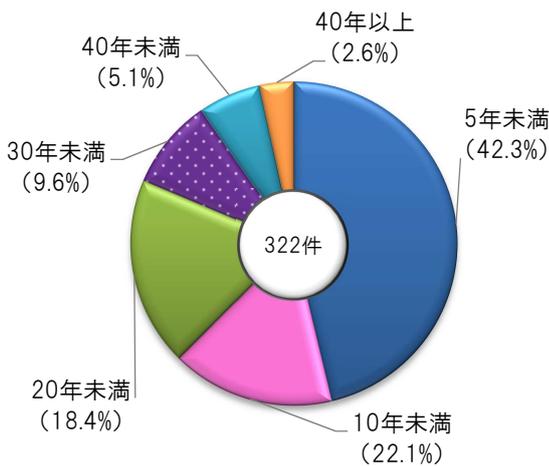


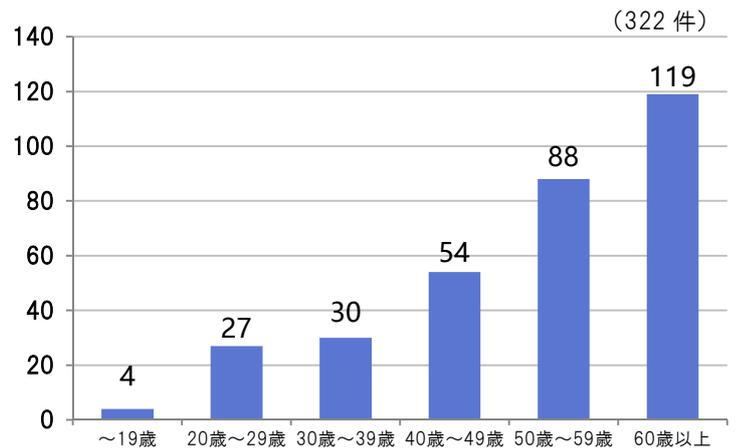
愛媛県の転倒災害の推移



経験年数別（平成28年）



年齢別（平成28年）



転倒災害が発生した原因として考えられるもの

身の回りの整理・整頓を行っていなかった。通路、階段、出口に物を放置していた。

床の水たまりや氷、油、粉類など、その都度取り除いていなかった。

安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていなかった。

転倒を予防するための教育を行っていなかった。

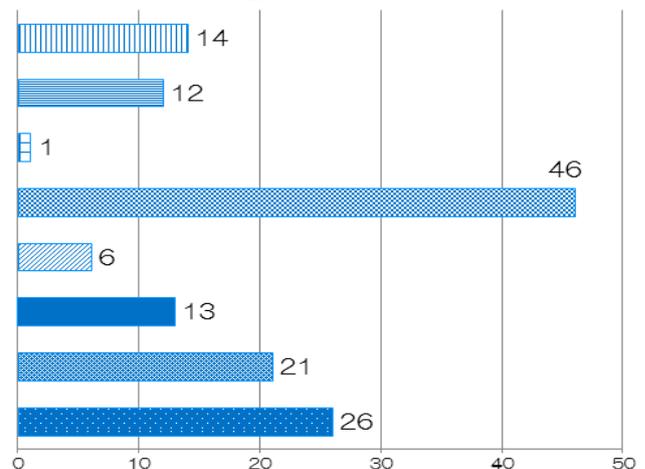
作業靴は、作業現場に合った対滑性を有し、かつサイズの合ったものを確保されていなかった。

ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していなかった。

段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていなかった。

ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていなかった。

転倒災害自主点検結果(H28.4.1～12.31 〈回答数111〉)



転倒災害の種類と主な原因

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。あなたの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り



【主な原因】

- 床が滑りやすい素材である
- 床に水や油が飛散している
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている

つまずき



【主な原因】

- 床の凹凸や段差
- 床に放置された荷物や商品など

踏み外し



【主な原因】

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での作業

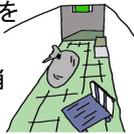
転倒災害防止対策のポイント

転倒災害防止対策により安心して作業が行えるようになり、作業効率が上がります。できるところから少しずつ取り組んでいきましょう。

設備管理面の対策

【4S(整理・整頓・清掃・清潔)】

- ◆ 歩行場所に物を放置しない
- ◆ 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- ◆ 床面の凹凸、段差等の解消



転倒しにくい作業方法

【あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて】

- ◆ 時間に余裕を持って行動
- ◆ 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行
- ◆ 足元が見えにくい状態で作業しない



その他の対策

- ◆ 作業に適した靴の着用
- ◆ 職場の危険マップの作成による危険情報の共有
- ◆ 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起



【コラム】正しい靴の選び方

靴は、自分の足に合ったサイズのものを使いましょう。小さすぎる靴では足指が動かしにくく、バランスを崩したときに足の踏ん張りがきかなくなります。逆に大きすぎる靴では、歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかどが、足の動きに追従できなくなります。

以下のポイントにも注意して、作業に合った靴を選びましょう。

靴の屈曲性

靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。



靴の重量

靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。

靴の重量バランス

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく(トゥダウ)、無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じやすくなります。



つま先部の高さ

つま先部の高さ(トゥスプリング)が低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。高齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向があるため、よりつまずきやすくなります。

靴底と床の耐滑性のバランス

滑りやすい床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまづく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑りやすさの程度に応じたものとする必要があるため、靴はできるだけ履いてみてから選定することをお勧めします。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！
STOP! 転倒災害プロジェクト

STOP! 転倒 検索